みんなで未来の高校のアイデアを考えよう！

しがの高校をリ・デザインする県民ワークショップ



第４回　開催報告

10月24日（土）
13:30～16:00

しがの高校をリ・デザインする県民ワークショップ

第４回 開催概要

日　時：2026年10月24日(土) 13:30～16:00
会　場：COZY TOWN　彦根
参加者：24名
主　催：滋賀県教育委員会

当日のスケジュール

13:30	開会・教育委員会からの説明 / WSの説明
14:00	第1部 いいところ・困るところ・チャレンジ
14:45	これからのしがの高校への提案
15:00	休憩
15:10	第2部 テーマごとに、提案を１つに育てよう！
15:35	発表・共有
15:55	まとめ



このワークショップについて

滋賀県では、2040年を見据えた高校教育の将来ビジョンの策定を進めています。本ワークショップは、その検討に県民の声を反映させるため、中高生・大学生から保護者、教職員、地域・企業の方まで、さまざまな立場の人が集まり、これからの高校の在り方を対話で考える場として県内6か所で開催します。

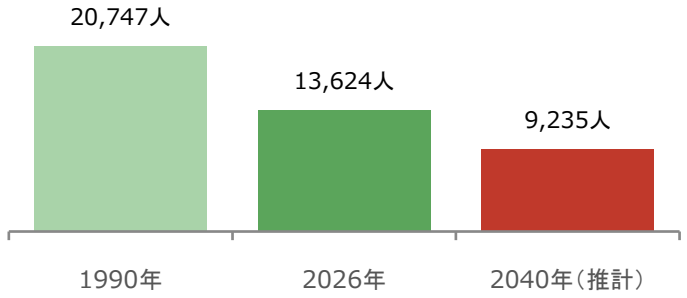
参加者

中学生1名、高校生13名、大学生2名、保護者2名、教育関係者3名
企業・教育事業・NPOなど3名、

2040年を見据えた高等学校教育の在り方について

滋賀県教育委員会から、滋賀県の高校教育を取り巻く課題について説明がありました

1 生徒数の減少



滋賀県の15歳人口（中学校卒業予定者数）は、2026年から2040年までに**約4,389人減（約110クラス分に相当）**の見込み。

- ✓ **生徒数の減少に合わせた学校規模の検討**
- ✓ **地域の実情に応じた配置・役割**
- ✓ **多様な学びの場の確保**

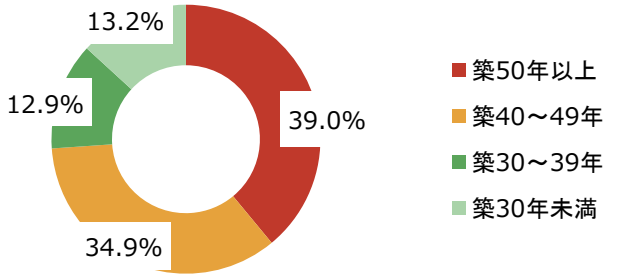
2 学びの多様化と授業料無償化

学習ニーズの多様化
- 生徒の興味・関心や進路希望等に応じた学びの多様化への対応
- 不登校生徒の増加に伴う対応や、外国人生徒等の多様な学びへの対応

地域とのつながりによる学びの展開
- 地域や企業との交流、地域人材の活用等による高校教育の魅力化
- 地域課題の解決に主体的にかかわる、地域の将来を支える人材の育成
- 地域の小中高の学校段階間の円滑な接続

国による高校授業料無償化の拡大（令和8年度～）
- 公立・私立を問わず経済的負担が軽減
- 県立全日制高校の平均志望倍率が1倍を切る
- 県内私立全日制高校への志望割合が15.9%で過去最高

3 校舎等の老朽化



- 将来的に多くの学校で改築や大規模改修が必要となり、その経費負担が大きな課題に。
- 魅力化の観点から、施設・設備の充実（専門的な学びに対応した設備機器、体育館空調など）も必要。

4 課題のまとめ

多様な生徒一人ひとりが「滋賀」という地域から学び、社会の一員としての自立を目指す学校づくりを進めるとともに、時代に合わせた新たな学び、県立高等学校の配置の在り方等を検討し、**生徒、保護者から進学先として選択される、魅力ある高校づくり**を進めていく必要がある。

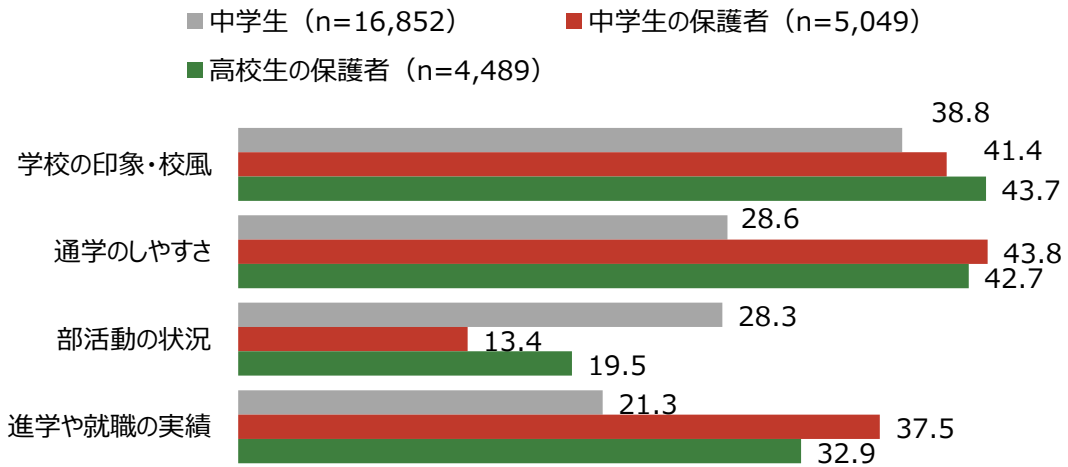
県民アンケート　調査結果の概要

38,378 件
生徒・保護者・県民からの回答件数

72.5 %
中学3年生のうち、県立全日制を希望

82.3 %
中学生の保護者のうち、就学支援金が
進路選択に「影響がある」（高1は51.0%）

高校選びで重視する点（上位4項目、%）



重視する点は2つまで選択

自由記述で多いテーマ（立場別、上位2つ）

中学生
- 楽しさ・雰囲気 **21.0%**
- 部活動 **14.3%**

高校生
- 校則・自由 **18.4%**
- 施設・設備 **16.9%**

保護者（中学生・高校生）
- 学力・進学支援 **30.6%**
- 学科・コース・特色 **19.7%**

県民
- 学力・進学支援 **40.1%**
- キャリア・地域・体験 **31.4%**

1,201件 エアコン・空調・暑さへの言及
（うち高校生 735件）

42.8% 高校生が挙げた今の高校生活の楽しさは「友達」

134件 「通信制」への言及
不登校113件・外国ルーツ51件

セッション１ ：高校の いいところ / 困るところ / チャレンジ

湖東地域・滋賀県の高校について、3つの視点で意見を出し合いました

いいところ・残したいところ

自然・歴史	・豊かな自然と琵琶湖での学び ・彦根城や遺跡、文化財が身近 ・歴史や伝統ある学校、伝統行事 ・お城の中にある学校も
地域・人	・地域に愛され、地域連携も盛ん ・先生との距離が近く相談しやすい ・おだやかで明るい空気、人の温かさ ・県庁訪問や仕事体験の機会
学び・活動	・部活動や探究、研究発表が盛ん ・留学支援や海外との交流 ・生徒の意見を取り入れてくれる ・本気のイベント、生徒会活動
環境・制度	・選べる制服やコースが増えている ・自習室や勉強スペースが充実 ・京都に近く、進路の選択肢が広い ・デジタル化、英語・IBの学び

もっとこうしたい・困るところ

通学・交通	・駅から遠い、電車やバスが少ない ・雪の日や冬の通学がつらい ・交通手段がだんだん減っている ・重い荷物を軽くしたい
施設・環境	・校舎や設備が古い、トイレも汚い ・タブレットやネット環境が不十分 ・学食や休憩スペースがない ・体育館やウエイトルームを改善
学び・校則	・課題や小テスト、予習が多すぎる ・文理選択が早い、授業を選びたい ・校則や制服、体操服登校の見直し ・進学トップ校の選択肢が限られる
交流・部活	・他校や地域、大人との交流が少ない ・生徒や先生が減り、部活も減少 ・自分の学校や地域への愛着が薄い ・チャレンジする人が少ない

チャレンジできると思うところ

学校をこえる	・他校と合同の授業や行事 ・学校対抗の体育祭・文化祭 ・地域留学、海外の学校との交流 ・合同ゼミのような学び
地域・社会と	・企業や大学と連携した授業 ・探究で学校の外へ、琵琶湖の学び ・彦根城を世界へ発信、観光を活かす ・伝統工芸や琵琶湖の生態系の学習
生徒が動かす	・生徒による商品開発やイベント運営 ・生徒が先生に授業をする ・自分で時間割や授業計画を決める ・鳥人間コンテストに挑戦！
新しい仕組み	・単位制や飛び級、留学を単位に ・オンライン授業やAIの活用 ・校内に学食や売店、コンビニを ・服装の自由、体育後は体操服OK

セッション２：これからのしがの高校への提案

一人ひとりが「アイデア提案シート」に提案を書きました（一部抜粋）

学校の枠をこえる

滋賀県合同チャレンジ
県内の希望者が集まり、勉強・研究・留学・事業・部活など何にでも挑戦。NPOや県が支援

シャッフルできる高校
キャンパス化して先生を共有。オンラインも活用し、1つの学校にこだわらない

連合体育祭・文化祭
他校と一緒に開催。1日目と2日目で互いの学校へ行き、計画はオンラインで立てる

他の学校の部活に…！
他校の部活に参加できるように。人が足りなくて部活ができない、をなくしたい

Can-Satプログラムを他校と実践
ロケット・宇宙の1歩目。いろんな人とチームで3日間、難しいことに挑戦

高校の合併化
近い高校や中学校を合併。移動面でもよく、高校同士で校風のいいとこ取りができる

SKMAプロジェクト
シガコウコウM&A。高校同士が理念や目標を共有し、強みを伸ばして滋賀県を強く

学校をこえて「学びの共有」がしたい！
各校・各個人の「面白いこと」を滋賀全体で共有。手軽に発信できるコミュニティを

地域・社会とつながる

CONNECT with 高校生
他校・大学・企業と連携する機会をカリキュラムに組み込み、成果発表会で高め合う

これからの道が広がる！
企業・大学・地域・海外…様々な立場の人と交流。大人は若者や社会の本音が聞ける

他学校・企業と取り組む地域イベント
他校同士で話し合い、事業に挑戦。地域交流したい企業やお店と未来を決める手助けに

学校内で商品開発・創業、商店街へ
校内に商店街ゾーンを設け、創業して店舗を経営。将来的には地域の人にも開く

地域の未来を見据えたコンソーシアム
高校・行政・自治会・企業・小中学校・大学で、地域の未来のビジョンを共有する

地域連携・高大連携のコーディネーター
各校に配置。滋賀の魅力からイノベーションを学び、大学との垣根を取り払う

大学との連携が深い高校に
大学と設備を共有し、高校生と大学生の交流や発表の機会を増やす

学校をとびだそう！
校外活動や他校・地域の大人との連携、部活の合同チームも。交通手段と調整役の確保を

学び方・授業を変える

空きコマ、戦略的サボりOK！
自分でコマ割りを決める。週や月の規定コマ数さえ満たせばOK

自由と規律の遵守
服装や勉強内容を自由に。週1で資格の自由勉強、定期考査はレポートや小テストに

生徒に任せてみる
校則や授業、体育祭などの行事を生徒に任せる

定期的に生徒が教師に授業
単元ごとに、教科や役職に関係なく生徒が授業をして理解を深める

マッチングティーチャー
生徒が先生に授業をし、好きな先生の授業をとる。教える・教えられる関係をこわす

少人数授業を全クラスに！
クラスを半分に分けて別の場所で（特に数学）。発言しやすく理解も深まる

文・理関係のない自由な探究活動
地元企業・大学・他校と関わりながら探究し、文系・理系の壁をなくす

興味があることを制限されずにできる環境
びわ湖や文化財を生かしたフィールドワーク。学校間を自由に移動して授業を受ける

進路・部活・学校環境

夢（将来）を決めやすくなる授業
企業見学や地域文化に触れる機会を通して、興味を持てることを探す時間を設ける

早くから進路に具体的なイメージを持つ
職業体験を増やし、進学や就職に向けた準備を早めにできるように

より学校をこえた教育を！
部活動やスポーツ、交流を地域の人や施設、文化とつなげ、学びの範囲を広げる

部活動をもっと充実させる
施設を良くし、たくさんのスポーツで色々な人と関わり、物事を色々な角度で見る

リュックキャリー・部活動地域化
タイヤ付きのカバンを広めたい。学校の部活動を地域クラブに

支援級の子が通える環境と科を
知的・情緒の支援級や境界知能の子も地域で通える高校と、サポートの先生を

公立高校にも学食を！！
年に少し払えば昼食がもらえる給食のような制度。廃棄予定の食品も学校に

学習環境の最適化
Wi-Fi整備、体育館のクーラー、トイレの改修。学校に路線バスを停車させる

セッション３ ：テーマごとに、提案を１つに育てよう！

テーマ別のテーブルで提案シートをまとめ、AIでイメージ画像にして発表しました

① テーマのテーブルへ ▶ ② 提案シートを作成 ▶ ③ AIでワンシーンを画像化 ▶ ④ スクリーンで発表



A｜文理・学校の枠をこえた学び
CONNECT with 高校生 ― 立場を越えて集まれる教室



B｜地域まるごとキャンパス・開かれた学校
食べてつながるランチ・ミーティング



C｜生徒が主役の学校
「生徒」の、「生徒」による、「生徒」のための学校。



D｜学校の大きさ・場所・通学
ホーム＆アウェイ ― 県立高校を自由に行き来する



E｜多様な学びができる学校
多様な生徒が主体的に学べる学校づくり



F｜部活動・好きなことができる学校
“三コウ”良し ― 3つの学校が1つの連合に

参加された方の声（アンケートより、一部抜粋）

Q1　今日の話し合いで、いちばん印象に残ったのはどんな話でしたか

・移動しながらの授業が印象に残った。移動時間も学習にあてることで、通学時間の長い子どもたちの支援になると思った。
・三校で一つの連合を組む話。移動にかかる時間やお金を、バスの中で授業したり、バスにスポンサーのロゴをつけて宣伝したりして解決するという提案が印象に残りました。
・高校生が財源確保のことまで考えてアイデアを出してくれたこと。「部活動」は高校生にとって大変大きなものだと改めて感じました。
・最後のまとめ発表で、少しずつテーマは違っていましたが、「地域の人々と関わる」という点で共通していたのが印象に残りました。
・テーマが違っても本質的な課題は類似していると感じる。教育長の話にもありましたが、「関係人口を増やす」という視点は大切ですね。
・高校生（中学生）の能力におどろきました。深い考えを持っている生徒が実際におられて、彼らの学びが他の高校生にも共有されたらおもしろいと思う。
・学校が統合されることはデメリットばかりでなく、広い地域の子どもたちの交流にもつながっていくというメリットがあることが分かった。
・保護者の立場の方と話す機会はあまりなかったので、「支援」の度合いによっては入ることのできない養護学校があることが印象的でした。
・生徒が動かなければいけないと考えるためには、まず先生たちが生徒にその場を与えないといけないと思った。
・僕もいろんな同級生とつながりたいという思いがあったけど、みんなそのような思いを持っていることがうれしく、印象に残っている。

Q2　今日、伝えきれなかったことはありますか

・学校数やクラス数の減少は避けられない中、高校生に選択肢を残し、やりたいことをあきらめさせないためにも、また多様な人との関わりを保証するためにも、移動手段の保証とコーディネート人材の確保は重要だと思います。
・各校や個々の学びが、せまい範囲でとどまっているのがもったいない！今日の体験や学びも、多くの滋賀の高校生に共有できたら…。
・「多様な学び」と一言で言っても、進学をめざす、高校を卒業したい、支援が必要など幅が広い。県全体としての学校の役割分担は必要だと思う。
・知的支援級で手帳がとれない「はざま」の子が、地域の県立高校で進学や就労につながる学びができる仕組みや、支援の先生の配置を。
・高校と特別支援学校の生徒との関わりを増やし、お互いの理解を図る。
・滋賀県中の高校の口コミサイト（生徒の気持ちだけが反映されるもの）があればおもしろそう。

Q3　今後、こんなことを話し合ってほしいというテーマはありますか

・高校が支援を必要としている生徒をどのように支えていこうと考えているのか。
　コーディネーターの専門性をどう考えているか。
・高校生がいろいろなところと交流するとき、企業や大学の側が受けるメリットが知りたかった。
・地域の高校に選択肢が少ない。
　近くの県立高校が選択肢になる高校改革を、早く実現するためにどうしたらよいかも話し合ってほしい。
・「先生」と「生徒」の立場としてあるべき姿とは。
・常に、高校生はどうしたいかということを考えて話し合ってほしい。














「生徒」の、「生徒」による、
「生徒」のための学校。
生徒・先生・学校が、フラットにつながる。
生徒が授業をつくり、先生が評価する
生徒同士で校則を考え、つくる
自分たちで考え、つくる




“三コウ”良し
3つの学校が1つの連合を組みます。

会場の様子